

オゴンゴキャンパス稲作収穫行事
「生計向上のための小規模農家における湿地稲作の促進」
令和5年7月10日
オムサティ州ナミビア大学オゴンゴキャンパス

令和5年7月10日、西牧大使はナミビア大学の招待を受け、同大学オゴンゴキャンパスの稲作収穫行事に出席しました。西牧大使は、日ナミビア・米・マハングプロジェクトに関する、日本とナミビアの長期的な協力関係の直接的な成果であるナミビアの湿地米文化の発展を背景に、良好な二国間関係を促進するための国際協力の重要性についてメッセージを発信しました。

本行事には、ナンディ＝ンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣も出席し、ナミビア及びナミビア国民に対し、特に農業と教育の分野において、日本政府が長年にわたり支援を行ってきたことを賞賛しました。ナンディ＝ンダイトワ副首相は、「ナミビア政府を代表し、JICA および在ナミビア日本国大使館を通じ、食料安全保障の向上のためナミビアにおける米の生産促進に貢献された日本政府に対し、心からの感謝の意を表します。日ナミビア・米・マハングプロジェクト期間中に JICA の支援により、当キャンパスは農作業や学術活動のほとんどを実施することができたと承知しています。西牧大使、ありがとうございました。日本政府と日本国民に感謝の意をお伝えください。」と述べました。

本行事には、主催者であるエンジャラ・オムサティ州知事をはじめ、各地域の知事や議員、マテングナミビア大学副学長、ナムヒラ同大学教授、ニカノア同大学農学・工学・天然資源学部長、ムブレマオゴンゴキャンパス長、その他多くの大学職員が出席しました。

また、オゴンゴキャンパスでの稲作と養鶏の拡大促進のためにナミビア大学に機材を寄贈したメルテンス・DEBMARINE 社 CEO も出席し、その他、各省庁、国連機関、NGO、市民社会、学界など様々なステークホルダーからの代表者や、米生産農家、湿地稲作について熱心に学んでいる近隣の村の学校から多数が参加しました。



スピーチを行う西牧大使



